

令和7年度 第4回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月5日（木） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 岩井 弘美子、川嶋 正幸、中川 勝夫、高柳 理子、中川 智博、紙上 理恵
高田 あゆみ、石坂 紀子
- 4 欠席委員 清水 裕人
- 5 オブザーバー 井下 俊輔（青少年の家）
- 6 学校支援CD 紙上 理恵
- 7 学 校 土屋 憲司（校長）、古橋 麻紀子（教頭）、太田 礎子（教務主任）
田村 静（CSディレクター）
- 8 教育委員会 なし
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 田村 静
- 11 議長の選出
古橋教頭より、議長の選出について委員の意見を求めたところ、岩井会長を推挙する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。
- 12 協議事項
 - (1) 学校関係者評価（「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む）
 - ① 本年度の教育活動の説明
 - ② 学校評価を元にした改善案についての説明
 - ③ 改善策についての熟議
 - (2) 来年度の学校運営の基本方針説明
 - (3) 学校運営協議会の自己評価
- 13 会議記録
委員総数9名のうち8名の出席があり、過半数に達しているため、古橋教頭より会議が成立している旨の報告があった。
 - (1) 学校関係者評価（「いじめ防止等のための基本的な方針について」含む）
 - ① 本年度の教育活動の説明
 - ② 学校評価を元にした改善策についての説明
 - ③ 改善策についての熟議太田教務主任より説明があり、委員からは以下の発言があった。
 - ・グラフの形状・所見・分析は殆ど変わらない。城北小は革新的な教育方針に舵を切ったが、数字の上での変化はないので、現場はどう感じているか。教員同士、世代を超えての継承は出来ているか。（中川智博委員）
 - 授業において、子ども達が話し合いに慣れ、友達の意見を聞くことが当たり前になってきた。教員も子どもの意見を聞くという姿勢が備わってきた。時間の組み方が課題だが、教員同士の実践を共有することで、学年の中での話し合いが多くみられるようになった。（太田教務主任）
 - ・研修を通して革新的な教育に変わったが、研修の秘訣は何か。（岩井会長）
 - 普段から世代を超えての話し合いが出来ていることが大きい。信頼関係にも繋がる。（太田教務主任）
 - 学校目標における、子どもたちに付けたい力と研修テーマをリンクさせた。焦点化したことで、教員同士

- が熟議し、実践を共有できた。しっかり整理したことで、教員の意識が高まった。(校長)
- ・職員室の空気感・雰囲気が良い。教員が一生懸命取り組む姿が子どもや保護者に伝わっている。出来ない子、外れてしまう子へどのように手を差し伸べていくかが気になる。(紙上委員)
 - ・学年で付きたい力を常日頃話し合い、知恵を出し合っていたことが、意識改革に繋がった。総合的な学習において主体性を追求することは比較的分かりやすいが、教科ではそれぞれ付きたい力がある為、どのように主体性を引き出すかが命。(岩井会長)
 - ・学校で教わったことが、前向きに自分で考える力として身に付くと良い。いじめが無くなることはあり得ないので、それを見つけて対応できることが大事。(川嶋副会長)
 - ・今年は授業中に廊下で見かける子が少なかった。主体性を認めるということは、子どもたちの自主性や個人の存在意義を認めてもらうことに繋がったのではないかと。(高田委員)
 - ・いじめアンケートで100%というのは、いじめが撲滅されたという考え方もあるが、子どもたちの心が成長したともいえる。いじめは存在するかもしれないが、教育活動において主体的に行動するようになったことにより、自分自身と向き合い考える時間が増えたので、気持ちを昇華出来るようになった。(中川智博委員)
 - ・それぞれの個性をみて、どのように集団を育てていくか。教員の指導によって、いじめという形に表れずに乗り越えられた為、100%なのかもしれない。いじめの芽に早く気づき、良いアドバイスをして人間関係を構築させていけば、子どもたちは乗り越えていける。(高柳委員)
 - ・子どもたちが満足し、自信が持てるような授業をしているので、柔軟な許容体制が出来てきた。いじめの芽が無いわけではないが、大事には至らず、良い方向で昇華出来ている。そばにいる先生の励ましの言葉が上手。励まして上手に乗り越えさせている。(岩井会長)

(2) 来年度の学校運営の基本方針説明

校長より説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・焦点がしっかりしているので分かりやすい。(岩井会長)
- ・子どもたち全員が同じようなステップを踏んで取り組んでいるのか。(高柳委員)
- 課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現のサイクルを学んで身に付けることが目的。結果を求めるといふより、学習のプロセスを踏んでいくことが重要であることを教員が理解する。教員は見通しとふりかえりを工夫して実践・共有しているので、今後子どもたちに力が付いてくると思う。(校長)
- ・ふりかえりはタブレットに輸入するのか。(高柳委員)
- 取り組み方はそれぞれだが、自分の成長が見やすいので、タブレットの良さを生かしている教員もいる。(校長)
- 自分の思いを言葉で表現することが苦手な子には、個別に選択肢を与えるなど、個々に合わせて支援・対応している。その子なりの、という視点での成長を大切にしたい。子どもたちのふりかえりが教員の反省にも繋がっている。(太田教務主任)
- ・個々によってタイプもレベルも異なるので、多岐に渡った対応が必要。褒めながら乗り越えさせるという授業を行っているので、先生たちも日々学び続けなければ出来ない。(岩井会長)
- ・子どもたちに成果は表れているか。(高柳委員)
- ・低学年の頃は、間違えたり意見をけなされて笑われることが嫌で、頑なに手を挙げなかったが、最近は手を挙げて自分の意見を発表出来るようになった。先生の雰囲気づくりのお陰。これからもそれぞれの子どもの性格に合った指導をしてもらいたい。(高田委員)

→本年度は学び合いを重要視してきた。誰かの意見を否定しては学び合いにはならないので、少しずつ成長の土壌が整えられてきた。授業を頑張るとコスパが良く、結果的に子どもが穏やかに落ち着いてくる。実際、今年度の生徒間のトラブルは少ない。(校長)

→授業において、一旦周りとの話し合いをさせてから質問をすると、挙手率が上がる。人に話を聞いてもらったことで周りから認められ、同じ意見があるという感覚を理解すると、自分の意見を述べる怖さが軽減されるように感じる。(太田教務主任)

・最近の子どもたちは良くも悪くも人のことをよく観察している。昔より活動の最中に様々な声が聞こえるようになった。半面、落ち着きがない子も増えた。子どもたちのちょっとした良い行動を見逃さずに褒めてあげると、その後の印象がガラッと変わる。(井下さん)

・応援カードの取り組みにおいて、人を見ていないと良いところが見つけれられない。小さい頃から、人を見る・見られるという習慣付けが必要かもしれない。言いたいことが言える雰囲気があれば、いじめという感覚がなくなってくる。(川嶋副会長)

(3) 学校運営協議会の自己評価

・学校の基本方針の3本柱を共有化して理解できた。紙上委員を通して上手に情報発信をし、中川さんによってすぐに自治会へ拡大するなど、美化活動や環境整備における協力ができたので、教員が子どものことに一層精力を注げるようになる。地域の輪を広げて貢献し、協働の価値観を根強く広めていく。放課後の居場所作りや朝の声掛け運動、交通見守り隊の支援体制、そしてPTA活動をどのように改革していくか、具体的に手掛けていきたい。(岩井会長)

・挨拶運動を広めていきたいが、どのような方向性で地域に浸透させていけば良いか。(紙上委員)

・交通見守りに関して、安全確保の為に各関係機関に要請できるような体制づくりをしていかなければならない。要所に立って貰えることで、危険運転の抑止力になる。挨拶をしようではなく、地域の皆や子どもを守ろうという動機付けだと、人は動くように思われる。(中川智博委員)

・挨拶は強制できるものではないので、朝の声掛け運動において自主的に立ってもらう形をどのように作っていくか。各団体に要請すると強制になってしまう。主体的に行動できる言い方ややり方がないと良い。(中川勝夫委員)

・交通安全指導はやる側も命懸けなので、強制はできない。行政に訴えかけていく方法もある。(岩井会長)

・学校周辺を安心安全で暮らそうというチームや協議会などの権限のある別の組織を作り、フォローして動かないと子ども達を守れない。強制だとその場で終わってしまうので、継続していくことが大事。(川嶋副会長)

・自治会でも目指していることだが、これらは難しく大きな課題である。交通安全ではなく、声掛けなどのキャッチフレーズを考えてもよい。(岩井会長)

その他報告事項等

① 夢育やらまいか(CS加算分)報告

② 1月～3月の城北小サポーター活動実施報告

・学校支援コーディネーターから

その他連絡事項

次の運営協議会は、令和8年4月23日(木)14時30分～16時00分に城北小学校会議室にて行う。